

割り当て設定と再割り当て

はじめに

ワークショップの設定で、「提出期限後の提出を許可します。」にチェックを入れていると、提出フェーズが終了した後も学生は提出をすることができます。

その場合、評価の割り当てを再実施する必要が生じることがあります。

本マニュアルでは、「ランダム割り当て」を例に、割り当て設定と再割り当てについての検証と結果を記載します。

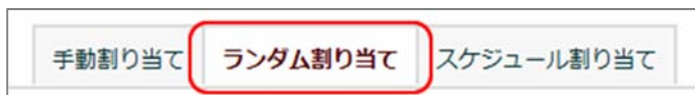
「割り当て設定」の場所

割り当て設定の場所は以下です。

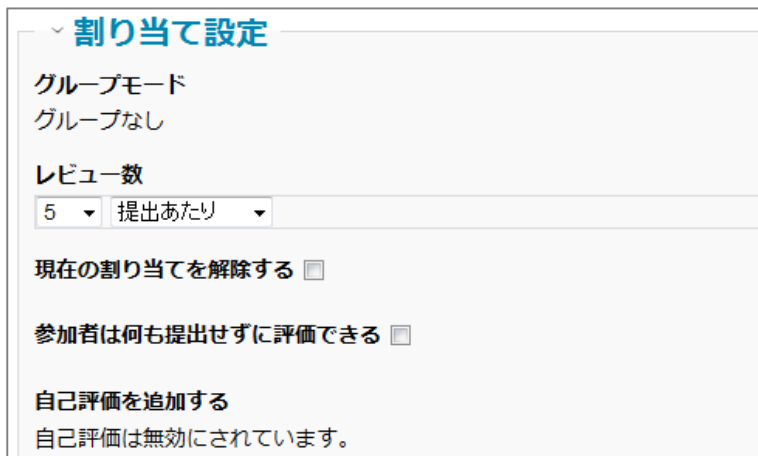
1. 提出フェーズの「提出を割り当てる」という文字リンクをクリック



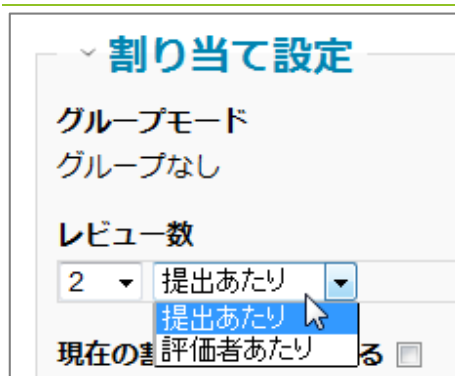
2. 「ランダム割り当て」タブをクリック



3. 「割り当て設定」が表示されます



割り当て設定



割り当て設定

グループモード
グループなし

レビュー数

2 提出あたり

提出あたり

現在の書評評価者あたり

る

本マニュアルで紹介する設定は、図で示した「レビュー数」のプルダウンの

- ・ 提出あたり
- ・ 評価者あたり

そして、図では隠れていますが、以下の「現在の割り当てを解除する」のチェックボックスです。

現在の割り当てを解除する

検証

A、B、C、Dの4名の学生で検証。

「提出あたり 2」の検証

行動+ 実施 評価者	評価をつける対象		
	(1) D以外が提出 →割り当て実施	(2) 遅れてDが提出 →再割り当て実施	(3) 「現在の割り当てを解除する」 にチェックを入れ、再割り当て実施
A	C B	C B D	C <u>B</u> D
B	C A	C A D	C D
C	A B	A B	A B
D			B A
(結果)	提出物と評価者の紐付け が確定 ※赤字は評価が実施され た提出物。	(1)の紐付けは保持され る。 <u>Dの提出物は評価される が、Dには評価するものが割 り当てられない。</u>	・既に評価済みのもの以外がランダムに 再割り当てされる。 ・太字 + アンダーラインのものは、 「すでに評価された提出を割り当てるこ とはできません」 とシステムメッセージが出たもの。 (評価済みでなかったら消えていたと 思われる。)

結果

- 「提出あたり 2」・・・提出物に対し、2人の評価者を割り当てる。ということ。
- 再割り当てをすると、後から提出した人が1人だった場合には、その人には評価するものが与えられない。
- 「現在の割り当てを解除する」にチェックしての再割り当ては、評価者が評価をしようとしていた提出物を変更してしまう恐れがある。

「評価者あたり 2」の検証

行動+ 実施 評価者	評価をつける対象		
	(1) D以外が提出 →割り当て実施	(2) 遅れてDが提出 →再割り当て実施	(3) 「現在の割り当てを解除する」 にチェックを入れ、再割り当て実施
A	C B	C B	C B
B	C A	C A	A D
C	A B	A B	<u>A</u> B D
D		A B	C A
(結果)	提出物と評価者の紐付け が確定 ※赤字は評価が実施され た提出物。	(1) の紐付けは保持され る。 <u>Dは評価をすることができる が、Dの提出物は評価され ない。</u>	・既に評価済みのもの以外がランダムに 再割り当てされる。 ・太字 + アンダーラインのものは、 「すでに評価された提出を割り当てるこ とはできません」 とシステムメッセージが出たもの。 (評価済みでなかったら消えていたと 思われる。)

結果

- 「評価者あたり 2」・・・評価者に対し、2つの提出物を割り当てる。ということ。
- 再割り当てをすると、後から提出した人が1人だった場合には、自分が評価する提出物は割り当てられるが、自分の提出物は評価してもらえない。
- 「現在の割り当てを解除する」にチェックしての再割り当ては、評価者が評価をしようとしていた提出物を変更してしまう恐れがある。